

ているらんぷ

第21号 (2024年1月31日発行)



2024年1月
新年号



小河さんミニ写真展 No.4



<掲載内容> *数字は入学年度(敬称略)

- | | | |
|-------|---------|----------------------------------|
| 2頁 | はじめに | : 68年 佐々木 |
| 2~4頁 | ミニ写真展 | : 67年 小河 |
| 4~12頁 | 会員からの寄稿 | : 特別会員 戸部、68年 豊島
68年 島、71年 坂巻 |
| 13頁 | 現役からの報告 | : 浜島 |
| 14頁 | 緊急追加 | : 73年 武元 |
| 15頁 | お礼と編集後記 | : 幹事会、68年 佐々木 |

<はじめに>

編集担当 佐々木 (1968年入学)

皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年も皆様にとって実り多き一年でありますようお祈り申し上げます。

昨年は新型コロナウイルスが落ち着いてきて当会のリアル総会を含め 4年ぶりに各種行事が復活し、久しぶりの旅行等を楽しまれた方も多いのではないかと思います。

一方、猛暑等の異常気象が激しくなり、本誌の豊島さん(1967年入学)のご寄稿原稿にもありましたように全国で多くの熊が出没したようです。

通常号の本号では、久しぶりに小河さん(1967年入学)の「ミニ写真展」を巻頭グラビアとして掲載しました。また、同期会による親睦活動のご報告も寄せられました。

激動の時代ではありますが、この「ているらんぷ第21号」をお読みいただき、平和で穏やかな毎日をお過ごしいただきましたら幸いです。

なおこの会誌の発行直前に能登半島地震の状況が入りましたので、14頁に追加しました。

本年もご指導ご協力よろしくようお願い申し上げます。

<ミニ写真展 No.4>

小河 (1967年入学)



メルヘン(昭和記念公園：立川市)=大和市文化祭・大和市長賞受賞作品

カメラ OLIMPUS OM-D E-M1Mark II 焦点距離 150mm、f 4.5、s 1/100、露出補正 +0.7



夜の帳(江ノ島)

焦点距離 12mm、f 2.2、s 1/10、露出補正 0



桜道 (二ヶ領用水 : 川崎市)

焦点距離 12mm、f 5.6、s 1/500、露出補正+0.3



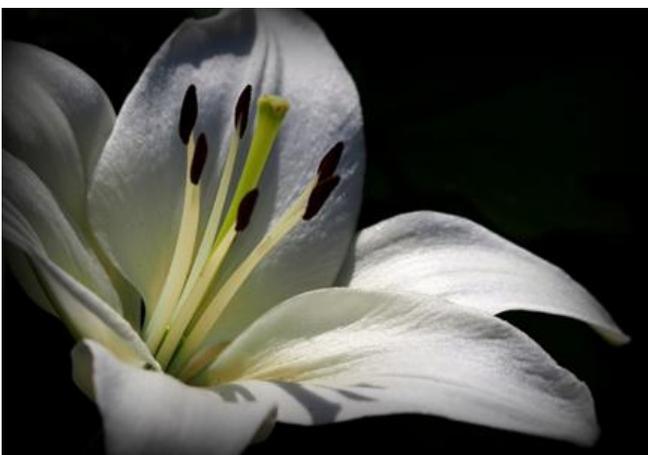
朝の雪景色(裏磐梯)

焦点距離 40mm、f 2.8、s 1/30、露出補正+1.5



朝の光(大和市プロムナード)

焦点距離 42mm、f 9、s 1/800、露出補正 0



妖艶(山手西洋館:横浜市)

焦点距離 78mm、f 5.6、s 1/2500、露出補正 0.3



とびま〜す(自宅)

焦点距離 150mm、f 8、s 1/500、露出補正 0



染まらずに(花の都公園:山中湖村)

焦点距離 150mm、f 5.6、s 1/320、露出補正 1.7



雨の中(昭和記念公園:立川市)

焦点距離 40mm、f 10、s 1/100、露出補正 -0.7

ミニ写真展も回を重ねて4回目となりました。テーマを決めて撮ることがないので、とりとめのない写真展になることはご容赦ください。今回は自分のお気に入り写真を選びました。「メルヘン」は大和市文化祭(2023年10月)に応募して「市長賞」を受賞しました。林の中をベビーカーの家族が歩いている情景が池に映り込んでいるのを撮った一枚です。花壇に咲いていた花々の中から黄色い花をベビーカーに重ねています。

< 会員からの寄稿 >

ナラ枯れ対策奮闘記

戸部(元自動車部顧問)

皆さん、ナラ枯れをご存知でしょうか？

コナラ、ミズナラ、クヌギなどの巨木が新緑もまぶしい7月ごろ、葉が茶色に変色してあっと言う間に枯れてしまう現象です。10年ほど前から日本全国で被害が増加しています。

原因はカシノナガキツイ虫！通称カシナガです。体長4~5mm、幅1mm位の小さな虫ですが、フェロモンを出して数百匹、数千匹の仲間を呼び集め巨木に取りつき卵を産むため穴を掘ります。カシナガはナラ菌を持っていて、この菌が樹木中に蔓延すると、樹木の揚水能力が失われるために枯れてしまいます。

我が家の西側には100m×100mほどの雑木林があり、ほとんどがコナラです。初夏には新緑の美しい緑、夏には涼しい風を送ってくれる貴重な林です。しかし、6~7年前からナラ枯れが発生し始め、5~6年間で25本の巨木が枯れました。年平均4~5本のコナラが枯れたこととなります。

この林は市の所有で「緑地」に指定されています。私たちは何回も市の公園課にナラ枯れ対策を要望しましたが、重い腰は動きませんでした。それもそのはず、市が委託している造園業者は、「ナラ枯れは天災」と言い放ち、私たちの活動をせせら笑っていました。

そこで、市や造園業者がやらないのなら私たちが何とかしようと、近隣6名でナラ枯れ対策チームを立ち上げました。

八王子市にはボランティア活動を公認する「アドプト制度」があり、これに参加すると物品が供与されますし、怪我の時には治療費も出ます。私たちもこのアドプト制度に加入しました。以下はこのチームの奮闘記です。

対策1 駆除

ナラ枯れ対策の最も重要なのは言うまでもなく、カシナガの駆除です。

多くの自治体がナラ枯れ対策のための調査、研究を行っています。愛知県の調査によると直径30cmのコナラにカシナガが産みつける卵の数はなんと約3万個だそうで、この卵が翌年の6月下旬ごろから成虫になって飛び出し、次の木をアタックします。そこで卵が入っている昨年枯れた木に粘着シートを巻き付け、出てきたカシナガを一網打尽にし駆除します。この粘着シートは「ゴキブリホイホイ」と同じアース製薬の製品で、「カシナガホイホイ」という商品名です。寸法は、約1m×30cmで、これを1本の木に数枚巻き付けます。ただし、幹に直接巻き付けるのではなく、幹とカシナガホイホイの間に隙間を作るため、4本のスペーサー、金網、カシナガホイホイ、農業用ビニールシートの順に巻き付けます。添付した写真はその例です。

対策2 健全木の保護

健全木にはカシナガにアタックされないように農業用ビニールシートを巻き付けました。カシナガの飛翔能力は低いようで、木の根元から2mくらいまでがアタックされます。そのため2mまでビニールシートで被えば、アタックを防止することができます。

対策3 見回りと殺虫剤噴霧

カシナガは幹に穴を掘りますので木くずが出ます。木くずと糞が混ざった「フラス」が出ているかを週に2回見て回りました。フラスを見つけるとブラシでフラスを取り除きゴキブリ用の殺虫剤を噴霧しました。カシナガは小さな虫ですので少量の殺虫剤でも効果があるのか、1回の噴霧でフラスが出なくなります。

ここで私たちのチームが活動した「緑地」について説明します。形はU字型で中が谷になっている傾斜地です。特に谷の周辺は急傾斜で谷に降りるには滑り落ちるしかありません。また、今までの林の管理がおろそかになっていて、場所によっては雑草が人の丈以上に繁茂しています。蛇もいますしスズメバチもいます。見回り用の通路を作るためこの雑草刈から始めました。谷に降りるために梯子を設置しました。このため歩くだけで汗だくです。こんなにきつい仕事をどうして引き受けたかと後悔の気持ちも時々。

対策4 トラップ設置

多くの自治体でクリアファイルを使ったトラップを作製してコナラなどの幹に貼り付けカシナガを駆除しています。私たちもこのトラップを設置しました。

対策5 モニター用トラップの設置

モニター用トラップを設置して、24 時間にトラップに入ったカシナガの数を数えて飛翔状況の参考にしました。最高は7月初旬の24時間で約20匹！相当数のカシナガが飛んでいることが把握できました。

このほかに市に提出する当年度の活動報告書や次年度の活動計画書の作成、物品を供与してもらうための市との折衝などなど、令和5年の1月から8月まではカシナガ、カシナガの毎日でした。

で、結果は？チームの奮闘の甲斐あって、1本のナラ枯れも出ませんでした。ちょっとした達成感に浸りましたよ！

近隣の人たちと力を合わせての活動のすばらしさも体験しました。私たちがここに住み始めたのは35年も前で、一部の人とはFirst nameで呼び合うくらい親しいのですが、それでも目標に向かって力を合わせて活動すると、この人にはこんな優れた能力があったんだ！こんなに素晴らしい性格なんだと気づくことが多々あり、ナラ枯れ対策の副産物としては大きすぎる成果でした。

もちろん来年もこの活動を続け、緑の林を守ります。



カシナガホイホイを巻き付けた状態、右端が筆者

オーロラと熊

10年以上前になりますが、『一生に一度は見たいもの』との観光案内につられて、カナダのイエローナイフにオーロラ観察旅行にでかけました。オーロラといえば、深夜の雪原の上に妖麗に舞うオーロラと刷り込まれている身にとって、観察時期は真冬の極寒期一択でした。観察ポイントまでの移動は、夜ホテル前に当地のツアー会社が車でピックアップに来てくれ、深夜日付が変わった頃、現地を出発しホテルへと送り届けてくれるというシステム

豊島（1967年入学）



でした。確かに、-30℃の気温と雪道に不慣れなものにとって便利なシステムでしたが、真夜中さあこれからというところで、『ホテルへの出発のお時間です』となり物足りなさが残りました。また、南極越冬仕様のジャケット及びブーツを着用しての観察や、屋外でのバナナで釘を打つ極寒体験も一度経験するのは良しとしても、毎夜外で空を見上げる身には多少こたえました。ただ、頭上に繰り広げられるこの世のものとは思えないような天体ショーを堪能し感動し、オーロラ観察に嵌った自分がいました。

そんな訳で、2回目の観察旅行を自ら企画しました。今回は『秋のオーロラ旅行』と銘打ち、カナダのホワイトホース（イエローナイフとともにオーロラ出現帯であるオーロラ・オーバル域内に位置しています）での観察です。上にも書きましたが、『オーロラは冬』というイメージですが一年中でています。ただ、春から夏の間の極地地方は極端に夜が短く、オーロラが出ていても見る事ができません。9月になるとこの白夜の時期も明け、オーロラ観察のシーズンが到来します。空港でレンタカーを借り郊外のロッジへと急ぎます。湖畔に建つロッジ周辺が今回の観察ポイントです。夜はダウン・ジャケット程度の軽装で時間制限もなく深夜～早朝までの観察が可能です。前回とは観察ポイントまでのアクセスを含め大違いです。



ただ、こんな好条件とも思われる秋のオーロラ観察にも、思わぬ落とし穴があったのです。それは活動期の熊の存在です。実際、昼間ロッジ周辺の森に入り夜の観察のロケハンをしていると大きな熊の足跡を発見、否応なしにこの事実を認識させられました。この地域の熊はグリズリー（ハイイロクマ）と呼ばれ、日本のヒグマ同様大変攻撃的です。

さて、ここで今夜の対策が急務です。現地の公園管理事務所が発行するペーパーに載っていた『クマ対策』は、『クマに出くわしたら車に逃げ込め、木に登るのはダメ、背中を見せてもダメ、クマ・スプレーは有効、万事休すのときは両腕を大きく広げ自分を大きく見せる、等々。特に、子連れクマはより攻撃的になるので要注意』とあります。

今回はレンタカー利用が功を奏しました。ロッジの近くでのオーロラ観察にも車でアクセスし、観察中は常に避難できるシェルターとしました。このような対策を打っての観察でしたが、4夜の観察でオーロラが見られたのは1夜のみ（残り3夜は曇、雨といった天候条件）というやや残念な結果です。この勝率の悪さが次への挑戦を誘うというオーロラに嵌った人の『中毒症状』がこれです。また機会があれば是非行きたいと思っています。



以下、後日談です。カナダの旅行から帰って約1ヶ月後、丹沢のとある山に登山していました。お昼前のやや薄い霧の中、あと少しで頂上という落ち葉の深い急斜面で足元を確かめつつ登っていました。不意に何かの気配を感じ目線を斜面の上の方に向けると、15メートル程先にクマが落ち葉をかき分け夢中で食事をしているのに出くわしました。それも事もあろうに2頭の子グマを連れていきます。先方もこちらの存在に気づき、食事を中断し3頭でこちらを見えています。形勢は明らかにこちらが不利です。相手は急坂の上におり、しかも子連れ之母グマ…。まさに万事休すといったところです。ここで、1ヶ月前のカナダの公園管理事務所の『クマに遭遇したら…』の注意事項が頭を駆け巡ります。避難できる車はもちろんありません、クマ・スプレーも持参していません、『今がまさに万事休す』なのです。イチかバチかでストックを握る両腕を斜め上方へ大きく振り上げ仁王立ちとなりました。クマは一瞬これに反応し臨戦態勢を取ったように見えました。人間との面倒なトラブルを避けたかったのか右手脇をすり抜け走り下って行きました。今回の決着は付きました。その後はしばしば後ろを振り返りつつ、這々の体で下山口までたどり着き胸を撫でおろしました。思わぬところで経験が生き、九死に一生を得た一件でした。

車楽会

島（1968年入学）

1968年入学の自動車部同期の有志で、2015年から同期会を始めました。この時期は我々の年齢が会社勤務を終えるころとなったので、東京都や近県に住んでいる者同士で集まり、散策とランチを楽しみながら昔話に花を咲かせ、また現在取り組んでいる趣味などについての情報交換の場を持つようにしています。このときには夫婦での参加をするようにしていました。その後、この同期会を「車楽会」と名付けています。

2015年から2018年まで、新型コロナ感染拡大の前までの10回の車楽会では、吉祥寺、鎌倉、川越、横浜、小石川、荻窪、丸の内そして中野、吉田、島宅で、その後、2022年に再開し、吉祥寺、東京丸の内、横浜みなとみらいでの3回の車楽会を開催してきました。

ここでは、新型コロナ感染が落ち着いた後の3回の車楽会をご紹介します。

まず、2022年6月、岡崎君がNHKテレビ番組「にっぽん縦断こころ旅」（火野正平が自転車で各地を巡る）に、大学2年の時に自動車部仲間4人で東北ドライブ旅行したときのエピソードを投稿したところ番組で紹介されました。（メンバーは、岡崎、江間、佐々木、中野）

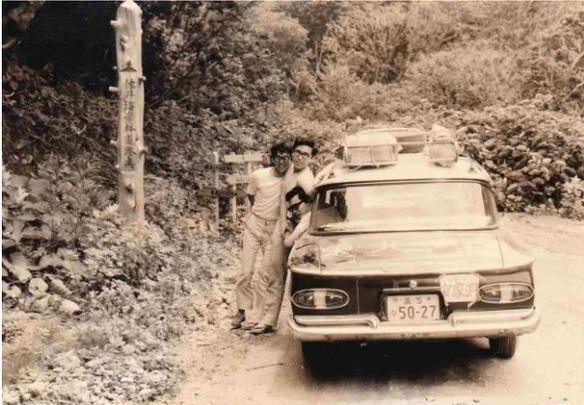
岡崎君の投稿内容が素晴らしかったのは当然ですが番組の取り上げ方も素晴らしく、旅行の後の仲間内での思い出話そのまま蘇ってくるようでした。その報告会を兼ねて吉祥寺で開催しました。懐かしい写真を見ながら思い出話に花を咲かせました。



出発前



東北の悪路に立ち向かう佐井海岸林道終点、



車後部に安家洞の
PRが貼ってある



2022-06-29_車楽会_吉祥寺

今年の5月20日、吉田君の計らいにより日本外国特派員協会のレストランで男性のみの集まりとして開催しました。(実は私の思い違いで、妻と一緒に参加してしまったので、女性がプラス1となりました)

この時には、吉田、江間、岡崎、佐々木、西、中野、島の7人が参加しました。特に江間君と西君とは久しぶりの嬉しい再会となりました。新型コロナウイルスの影響で、リアルに顔を合わせる機会がなかったけれど、豪華な雰囲気の中でお互いの健康を確認しながら思い出話や今の話を楽しみました。



2023-05-20_車楽会_日本外国特派員協会にて

外国特派員協会は日本商工会議所と同じ丸の内二重橋ビルの中にあり、日本商工会議所の初代会頭の渋沢栄一の立像が置かれています。商工会議所も外国特派員協会も私たちに縁がないものですが、吉田君のお蔭で良い東京見物ができました。

10月は、横浜みなとみらいでのランチバイキングで車楽会を開催しました。当初、ランチの後

に横浜の古い建物を巡りながらの散策を予定していましたが、あいにく雨天となり中止となりました。

横浜港の開港は 1859 年で歴的な建築物が残されています。神奈川県庁(キングの塔)、横浜税関(クイーンズタワー)、横浜開港記念館(ジャックの塔)、日本郵船歴史博物館、赤レンガ倉庫なども横浜の歴史を感じさせてくれますが散策出来ず残念でした。

ランチに参加したのは、江間、岡崎、佐々木夫妻、中野、吉田夫妻、島夫妻の 9 名でした。ランチを取りながらのお喋りになりますが、この年になると、共通の話題は趣味の話となります。絵を描くこと、家庭菜園、まだ仕事を継続しているなど様々になりますが、大学生時代を共に過ごした仲間同士で過ごす時間は最高です。



2023-10-09_車楽会_横浜みなとみらい

今は、リアルの車楽会を開催できており、また次回のリアル車楽会の予定も決めています。これからは 1 年先輩が既に取り入れている ZOOM ミーティングも織り交ぜながら、同期の絆を維持していきたいと考えています。

以上

ブラジル駐在時の出来事

坂巻 (1971 年入学)

今から 10 年以上も前のことですので、記憶があやふやなところもありますが、記憶を掘り起こしながら書くことにします。

2007 年から 4 年半、ブラジルのサンパウロに駐在した時の運転免許取得と交通違反罰則に関する興味深い出来事をご紹介します。

運転免許取得

日本でも 70 歳以上の運転免許更新時には実技講習を受ける必要があり、また 75 歳以上で一定の交通違反歴がある人は免許更新時に運転技能検査が義務付けられましたが、それよりも早くブラジルで実技試験を受けた時のことをご紹介します。

2007年に赴任した際は日本の免許証をブラジルの免許センターに提示すると、ワーキングビザ期間と同じ2年間有効のブラジルの免許証が交付されました。2009年の更新時には視力検査のみで免許証が受け取れるものと思っていましたが、日本人に対する免許発行制度が変更になったとのことで『技能試験』と『安全教科試験』に合格しなければ免許証が発行してもらえなくなりました。この変更は在日ブラジル人にはブラジルの免許証があれば、従来は自動的に日本の免許証が交付されていましたが、急に日本政府が在日ブラジル人に対し日本の免許証を発行する際に技能試験を義務付けるとした措置に対して、ブラジル政府がその報復措置として在ブラジル日本人の免許発行要件を上記の様に変更したものです。

まずは技能試験が実施される場所と同一のルート(約1kmの長方形の一般路)での教習所の教官による技能実習を受講しました。技能試験時には簡単なポルトガル語による質問及び運転操作に関する指示がなされる為、事前にポルトガル語の勉強もしっかり実施しました。本番では教官より氏名・年齢・職業を質問された後に技能試験が開始されました。技能試験は直進走行・車線変更・坂道発進(ほとんど傾斜がない場所での)・縦列駐車が含まれます。試験は順調に進み、縦列駐車を実施することとなりました。ここで信じられないことが起きます。教官がポルトガル語で何かを話しかけ、いきなり助手席からハンドルに手を伸ばし、かつ、助手席側にある補助ブレーキを活用し縦列駐車をするではありませんか。その後、教官からは何事もなかったかのごとく、再発進を指示され技能試験は無事終了となりました。(試験はもちろん合格)

数日後に安全教科試験を受けることとなりました。試験はパソコンで行われ事故が起きた際に取りべき対応をクイズ形式で4択から正解を選択するものです。ここでも不思議なことが起こります。『マウスに手を添えるだけにしてください』とのアドバイスを教官から受けました。マウスに手を添え何が起こるのかとじっとしていました。パソコンでの試験が始まり正解を選択する段になると、何とパソコン上でマウスの動きに連動した矢印が勝手に動き正解を選択するのではないですか。これは誰かが離れた場所で私のパソコンをリモート操作しているのだと瞬時に理解しました。

日本への報復措置として導入された制度変更ですが、これらの不思議な現象はブラジルに赴任し、既に2年間も安全に車を運転してきた在ブラジル日本人に対する、ブラジル政府の粋な計らいがその背景にあったものと今でも信じています。

交通違反罰則

ブラジルでは交通違反を犯した際には日本同様に罰金と罰則点数が課せられます。日本の制度と異なるのは以下の2点だったと思います。

1点目の違いは、ある期間内(3カ月程度だったと思います)に同一の違反を犯すと罰金が2回目は2倍、3回目は4倍と倍増します。例えば、速度違反を何回も犯すとその罰金は1回目は800リアル、2回目は1600リアル、3回目は3200リアルとなります。サンパウロ市内には至るところに交通監視カメラが設置されており速度違反の取り締まりは日本より厳しい状況にあります。私がブラジルに派遣されていた時に同じ事務所で働いていた日本人駐在者で、3カ月以内に同じ場所で速度違反を3回犯し相当の罰

金を払っていました。『何故同じ場所で?』と不思議に思う人がいるかと思いますが、監視カメラの場合運転者に違反の連絡が来るのは1カ月程度後になる為、その時点では既に何度も違反を犯していたということになります。

2点目の違いは例外的な措置ではありますが、『罰金を2倍払えば、罰則点数を回避できる』という制度があります。私が勤めていた会社の場合、ブラジル派遣者には会社より車が貸与されていました。したがって違反を犯した場合には車の登録先である会社にその連絡がきます。会社からは『罰則点数+罰金』か『罰金2倍』のどちらにしますかと問い合わせがあり、違反者はどちらかを選択することになります。何故このような制度があるかということ、車が会社で登録されている場合、違反を犯した人が特定できない時は罰則点数を課する人がわからないこととなります。そのような場合には2倍の罰金を『会社』に課することになる訳です。多くの場合、我々駐在者は『罰金2倍』を選択しておりました。その理由としては罰則点数がある上限に達すると免許停止となり、運転ができなくなり会社へ出勤することができなくなるためです。もちろん公共交通機関、会社が運行するバスがありましたが、公共交通機関は安全の観点から、また会社のバスは運行時間、運行経路に制約があり利用することは困難な状況でした。

そういった理由から我々駐在員は罰金2倍を選択していた訳ですが、会社から違反の連絡を受けると秘書に罰金を渡し、罰金は秘書-会社のドライバーを通じて当局に納付され一件落着となります。従い、駐在者には手間暇が一切掛からない為、違反を犯したとの『罪の意識』はほとんど皆無といった状態でしたので、私も何回か罰金を払うことになりました。(笑)

トータル約10年間の海外駐在(イタリア・ブラジル)を経験しましたが、いずれの国でも交通違反を犯し罰金を払いました。ただ、日本では免許取得以来、幸運なことに違反を犯すことなく、今年10月に『50年間無事故・無違反』の表彰を受けることができました。今後も無事故・無違反を長く続けていけるよう、安全運転を心掛けていくつもりであります。



1970-1972年、75年入学忘年会

坂巻 (1971年入学)

今年3月に2年半ぶりの合同同期会を実施したのにつづき、12月に東京駅近くの居酒屋で忘年会を実施しました。まだ、現役並みのスケジュールで働いている人もいて、参加できたのは10名。近況報告に盛り上がり、アツという間に2時間が経ち、お互いの健康を祈り、また来年の再会を期して解散となりました。

参加者は、元監督；戸部、70年入学；羽入田、平山、藤村、71年入学；坂巻、中山、72年入学；小俣、鈴木、山崎、75年入学；永嶋



<現役からの報告>

2023 軽耐久レース 最終戦

現役部員のブログより

2年の浜島です。今回は11月19日に本庄モーターパークで開催された軽耐久レースの第4戦に出場をしてきましたので、そのことについて軽くご報告をさせていただきます。

まず今回の参加メンバーについて、4年生が2人、今回初参戦の2年生大河内君、そして自分の4人で参戦しました。他にも応援で1年生の中原君と近藤さんが来てくれました。今回はいつもとは違い、ちゃんと本戦前に練習走行を行い準備を整えてから参戦しました。練習兼予選はノリマツさんと大河内君が走り、ノリマツさんがベストタイムを出してくださいました。



決勝レースがスタートして順調に走りを進めていき、今回初出場の大河内君もベストタイム 53.683 という初めての参戦とは思えない好記録を残してくれました。また奇跡的に給油のタイミングでSCが出たり、ドライバー交代のタイミングがSCのタイミングといい感じにあってくれたりと順調に順位を上げていき、残り一時間というところで1位に浮上しました！最後のドライバー交代を終えノリマツさんが差を縮められないように健闘して無事1位でチェッカーを受けることができました。

今回は出場台数も多く横転する車やクラッシュパッドに刺す車も出るなどいろいろと荒れたレースにはなりましたが、アルトには前戦のようなトラブルもなく学耐クラス1位という好成績を収めることが出来ました！

来シーズンも好成績が残せるように整備、練習共に頑張っていこうと思います。



OB&OG 会へ寄付を実施して頂いた方々一覧

(2023.12.25 現在)

特別会員	戸部さん	1970 年入学	河本さん
1967 年入学	小西さん		藤村さん
1968 年入学	岡崎さん	1971 年入学	坂巻さん
	佐々木さん		中山さん
	島さん	1972 年入学	小島さん
	中野さん		(旧姓 吉田)
1969 年入学	甲田さん	1976 年入学	山田さん
	小島さん	1978 年入学	山内さん
	篠さん	1994 年入学	大類さん
	日暮さん	1995 年入学	大橋さん
	安永さん		佐藤さん

ありがとうございました。 幹事一同

< 緊急追加 > 2024 1 月 29 日時点 武元 (1973 年入学)

「1 月 1 日能登半島地震」について私の経緯、近況について報告します。

1 月 1 日 (月) 午後 4 時 10 分地震発生。揺れは強かったけど割と短時間で収まったので一安心でした。ストーブは即消火し室内で様子を見て外回りの点検、一応異常なし、その後非常に大きな余震が発生しました。時間も最初よりかなり長かったので、これはダメかなと思ったが、収まった後で再度外回りを点検しましたが大きな被害はありませんでした。目立った被害は敷地内の墓石が落下破損した程度でした。築 70 年の木造 2 階建て住宅が 2 度の大きな地震に耐えました。室内では幸いにも食器棚は転倒を免れましたが、扉が開いて若干コップ類が割れました。2 階ではタンス、本棚、カラーボックス類が倒れて散乱していましたが窓ガラス類は大丈夫でした。

私は 2 年前から 16 町、世帯数：約 1,800 世帯、人口：約 4,600 人の徳田地区まちづくり協議会の会長を務めています。地震発生後の午後 5 時前にコミュニティセンターの鍵を開け、直ぐに避難所を開設しました。既に駐車場に 5、6 台の車がいました。1 日夜は約 150 名程の人が非難してきました。コミセンは停電してないので、エアコンとストーブで暖房は OK ですが断水してしまいましたのでトイレの水が出ない。そこで自宅から大きいポリバケツを 2 個持込み設置し、自宅の井戸水をトイレ用として供給しました。1～2 日にかけて軽トラで夜通し 12 回ほどコミセンと自宅の間を水の供給に往復しました。自宅まで約 1 km の距離。この調子で毎日十数回水の供給で往復しなければならないのかと思いましたが、かつて父親が農業で使用していた約 300 リットルの大型タンクがありましたので、それを軽トラに載せて、更には有難いことに近くの工場の「井戸水」

を頂くことが出来ました。これで一日の水の運搬は2回ほどに激減したので助かりました。また我が家の井戸水が「枯れるのでは？」と危惧していましたが安堵しました。その後1週間くらいして約1000ℓの仮設タンクが設置され、給水車による給水が毎日行われました。これでかなり楽になりました。

最初の1日から4日間は連続してコミセンに宿泊しました。その後は事務局長と交代で宿泊しました。

自宅の井戸水は地震の影響で濁っており、飲み水としてはダメですが生活用としてトイレ、洗濯用として使えました。短時間自宅に帰り、寒いですがお湯を沸かして「行水」をしました。近くに住む次男夫婦・孫も我が家を利用していました。

18日頃まで避難所の運営に係っていましたが運営体制が整い、現在は市の職員と埼玉県&名古屋市の応援職員が24時間対応で避難所を運営しています。避難所の支援物資も豊富にあります。私、事務医局長、女性職員3名は本来業務に戻りつつあります。29日現在、避難者：14家族27名です。

前後しますが、18日に自宅水道が21日にインターネットが復旧しましたので生活上楽になりました。ただ水道は水質検査が終わってないので飲料としては沸騰させる必要があります。当面、支援物資の配布飲料水（ペットボトル）を使っています。

何故か気乗りがしないので、今度こそしなければならぬ食器棚の転倒防止もやらないし、2階の状況は特に生活上困らないので、そのままにしてあります。まあ、ボチボチやります、ですか。

七尾市でも被害の大きい地区、左程でもない地区が混在しています。私の徳田地区でもほとんど被害のない町、倒壊家屋が多く発生した町など様々です。

以上、経過と近況です。

皆様にもよろしくお伝えください。末筆ながら、くれぐれもご自愛ください。

<編集後記>

佐々木 (1968年入学)

「ているらんぶ誌」は、今号で第21号となり新しい時代に突入しました。

時代の流れの中で、OB&OG会活動も現役自動車部の活動もどんどん進化してきております。それに合わせて「ているらんぶ誌」は、OB&OG会員同士あるいは現役部員とOB&OGとの情報交流の場として皆様により興味を持って頂ける存在になっていけばと思っています。

その為にも、更に幅広い世代のOB&OGの皆様からの個性あふれるご寄稿を積極的にお送りいただけますよう心よりお待ちいたしております。

今後ともよろしくお願い申し上げます。